

## 認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成29年5月  
富山県高岡市

### 全体総括

#### ○計画期間：平成24年4月～平成29年3月(5年)

##### 1. 計画期間終了後の市街地の状況(概況)

第2期基本計画(平成24年3月認定)に基づき、「光り輝くまちなかの創生～400年の資産を守り、育み、繋ぐ～」を目指して、高岡にしかない歴史・文化資産の魅力を高めるとともに、中心商店街の魅力向上を図り、中心市街地の賑わい創出、観光客や来街者等の交流人口の拡大に努めてきた。

平成26年3月に高岡駅周辺整備事業が完成し、万葉線延伸による高岡駅舎への乗入れや人工デッキが整備されたこと等により歩行環境が強化されたことに加え、高岡ステーションビル及び高岡駅地下街がリニューアルされ、商業機能の充実したことで、高岡駅周辺における歩行者通行量が格段に増加した。平成27年3月に北陸新幹線が開業し、特急利用者が高岡駅から南へ1.5km離れた新高岡駅を利用するようになったことで、高岡駅直近部の歩行者通行量が減少に転じたものの、第2期計画の基準値よりも多い状態が続いている。

このほか、高岡駅前東第3街区再開発事業の一環として整備を進めていた複合ビル「ソラエ高岡」が平成29年2月に竣工し、市内における3つの看護学校が統合して全国有数の規模を誇る「富山県高岡看護専門学校」が4月から開校し、300名を超える学生が通学し始めることから、高岡駅周辺ならびに中心商店街において、若者をターゲットとした店舗やサービスを始める動きも出ている。

平成24年度から、たかおかストリート構想に基づき、山町筋の無電柱化やたかまちプロムナード事業、中心市街地ストリート回遊計画事業に取り組み、まちの特徴を活かした「歩いて楽しいまちづくり」を進めてきた。平成24年12月には金屋町が重要伝統的建造物群保存地区にされたこと、また、平成27年4月に重要有形・無形民俗文化財の高岡御車山を通年観覧できる高岡御車山会館が開館したことを契機に、首都圏を始めとした観光客が中心市街地を訪れ、複数の施設を巡ることで回遊性が生まれつつある。平成29年3月には山町筋において歴史的建造物をリノベーションした複合商業施設「山町ヴァレー」が竣工し、新たな観光スポット・交流拠点として回遊性の向上が期待される。

また、平成26年度から中心市街地における開業支援制度を拡充し重点的に支援したことにより、中心市街地や観光地周辺においては新規出店者が増加し、空き店舗数が減少傾向に向かっている。これらの動きに触発されるように、民間資本のホテルが本年3月にオープンしたほか、一部の商店街では自主的にワークショップを開催し、インバウンドを含む旅行客、出張客など新たな需要を取り込もうとする動きや、それぞれに観光地を抱える地域同士が連携し、もてなし力の向上を図る動きなどが芽生えつつある。

一方、中心市街地の居住人口は、まちなか居住支援事業の効果により、平成24年度に2棟の共同住宅が建設され増加に転じたものの、予測を上回るペースで自然減および社会減が発生しており、全体として増加には至っていない。

この対策として、平成26年4月よりまちなか居住支援事業の中古住宅購入支援の要件緩和や補助対象エリアの拡大などを実施したことにより、活用件数が増加しているところである。また、平成26年度から取組みを進めている中心商店街ミニ拠点開発事業が平成29年3月に着工し、平成30年度中には、98戸の共同住宅、商業施設、公益施設が入居する複合ビルが完成することから、居住人口増や歩行者通行量増に付随して、中心商店街の商業機能の活性化が期待される場所である。

##### 2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

### 【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した      ②順調に進捗したとはいえない

### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた  
②若干の活性化が図られた  
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）  
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

## 3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

平成 26 年 3 月に高岡駅周辺整備事業が完成して商業機能や歩行環境が充実・改善されたこと、平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業により観光客等の来訪者が増加したことなどにより、歩行者通行量は、基準値の平成 22 年と比べて平成 28 年は 28.3%の増加となり、目標を達成した。また、観光施設への入込数は、北陸新幹線開業に加え、同年 4 月に高岡御車山会館が開館したこと、文化庁の日本遺産に「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡一人、技、心一」として認定を受けたことなどの要因が追い風となったほか、中心市街地ストリート回遊計画事業による歩いて楽しいまちづくり等、各種ソフト事業に積極的に取り組んだことによって、目標には達しなかったものの、基準値から 3.6%増となり、改善をみせている。

これらに触発されるように、計画に記載のない民間資本のホテルが建設されたことや、中心市街地及び域内の観光地への新規出店や既存店舗のリニューアルが見られるようになった。一方、商店を営む事業主の高齢化や後継者不足などから廃業するケースも出ている。このようなこともあり、中心市街地の空き店舗数は、目標の 15 件には達しなかったものの、基準値の 23 件から 1 件減少の 22 件と改善をみせている。

一方、中心市街地における居住人口は、基準値 16,360 人に対し 14,965 人と基準値を下回る結果となった。市の中心部は高齢化率、人口減少率ともに市内平均よりも高い状況にあり、平成 24 年度に 2 棟の共同住宅が建設され増加に転じたことがあったものの、予想を上回るペースで自然減が発生している。平成 26 年度にまちなか居住支援メニューの拡充策として、中古住宅購入支援の要件緩和や補助対象エリアの拡大などを実施したことにより、活用件数が増加し、平成 27 年には社会増に転じたものの、全体として増加には至っていない。

人口減少や商店主の高齢化、大型量販店への顧客流出など、中心市街地を取り巻く環境は依然として厳しいが、平成 29 年 3 月には 98 戸の集合住宅を含む複合ビルの建設が着工し、同年 4 月には高岡駅前に看護専門学校が開校するなど、今後の居住者増や賑わい創出に大きく寄与することが期待できる。指標及び事業進捗の結果を踏まえれば、計画事業の推進による一定の成果は挙げられたものと考えている。

## 4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた  
②若干の活性化が図られた  
③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）  
④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

### 【詳細を記載】

当協議会においては、これまで協議会・幹事会等を開催し、官民一体となった中心市街地活性化の取り組みについて議論を進めてきた。

計画における各事業の実施により、4 つの目標指標のうち、「主要観光施設における観光客入込み数」、「中心商店街(6 地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値」、「中心商店街(3 商店街)における空き店舗数」においては、目標を達成もしくは基準値よりも改善が進んでいると考えている。

今後とも市民・民間事業者、商業者等が共有・共感できるまちづくりを目指し努力することが重要である。

## 5. 市民意識の変化

### 【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

### 【詳細を記載】

#### ①中心市街地活性化に関する市民アンケート

##### i) 調査実施時期

平成 28 年 8 月 5 日～8 月 24 日

##### ii) 調査対象・方法

18 歳以上の市民 2,000 人を無作為に抽出し、郵送配布・回収により調査を実施。696 人から回答を得た（回収率 34.8%）。

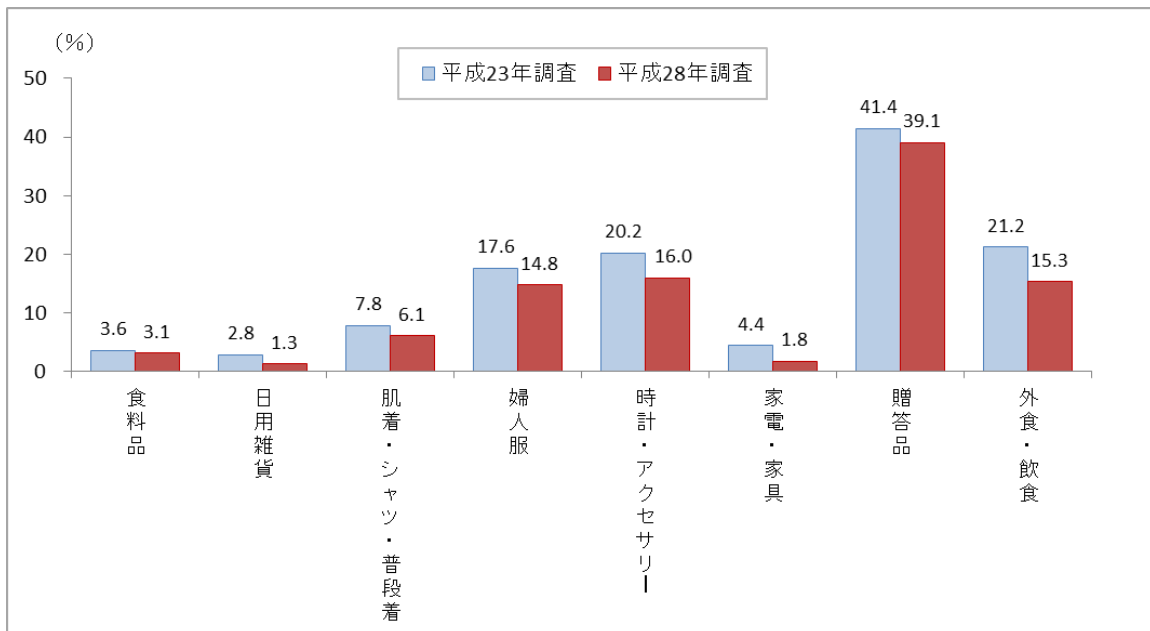
##### iii) 買物・飲食での中心市街地利用状況および中心商店街の商圈

買物・飲食等で中心市街地を最も多く利用する人の割合は、「贈答品」で 39.1%、「時計・アクセサリ」で 16.0%、「飲食」で 15.3%、「婦人服」で 14.8%となっている。これに対し、最寄品目で中心市街地を最も利用するという回答は極めて少ない。

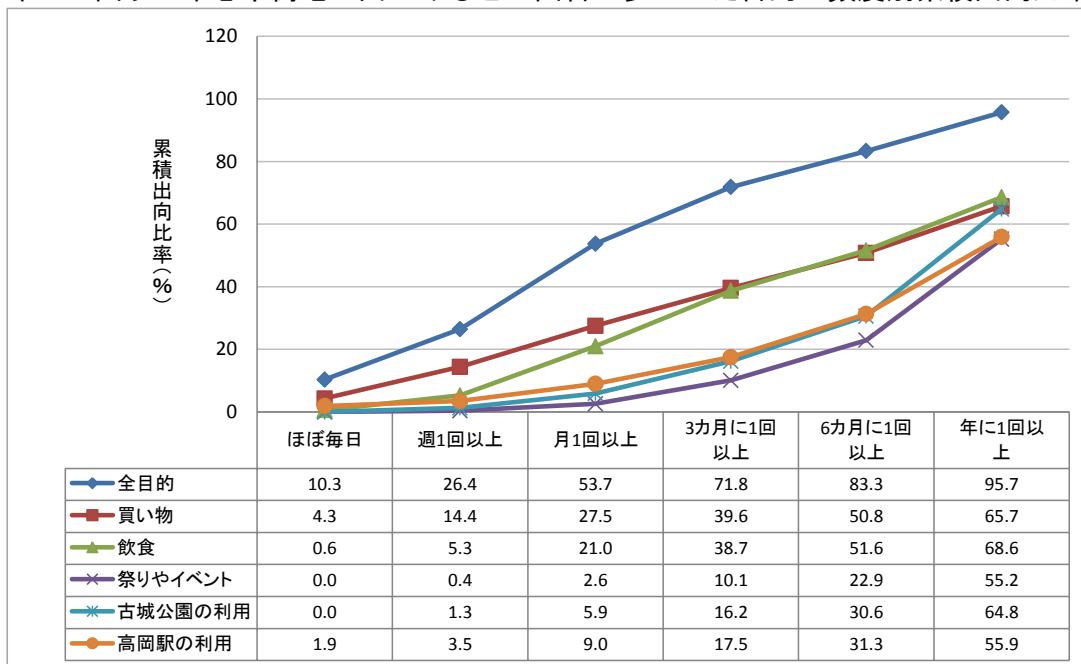
平成 23 年に実施したアンケート結果と比較すると、購買にかかる部分については全般的に若干の低下がみられるものの、「買物」を目的として週に 1 回以上中心市街地を訪れるとの回答が 14.4%あることと合わせ、市内全域を商圈（買回り品商圈＝週末商圈）とする商業集積は一定程度維持されている。

また、「教育・教養サービス」「レジャー、娯楽」分野で回答者の約 3 分の 1 が「中心市街地に行く場合が多い」としており、商業以外の教養、文化、娯楽の場としても中心市街地が一定の位置付けを得ていることがわかる。

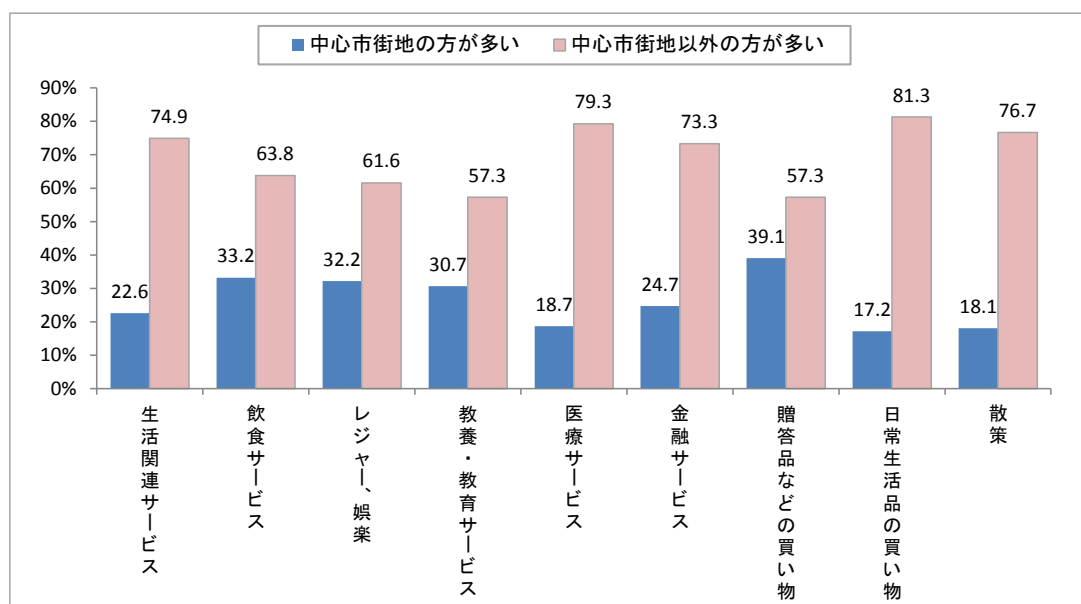
買物・飲食での中心市街地の利用状況  
（最も利用する場所として中心商店街・百貨店を挙げた割合）



年に1回以上中心市街地に出かけるとの回答が多かった目的の頻度別累積出向比率



他の地域と比較した中心市街地（全域）の選択状況

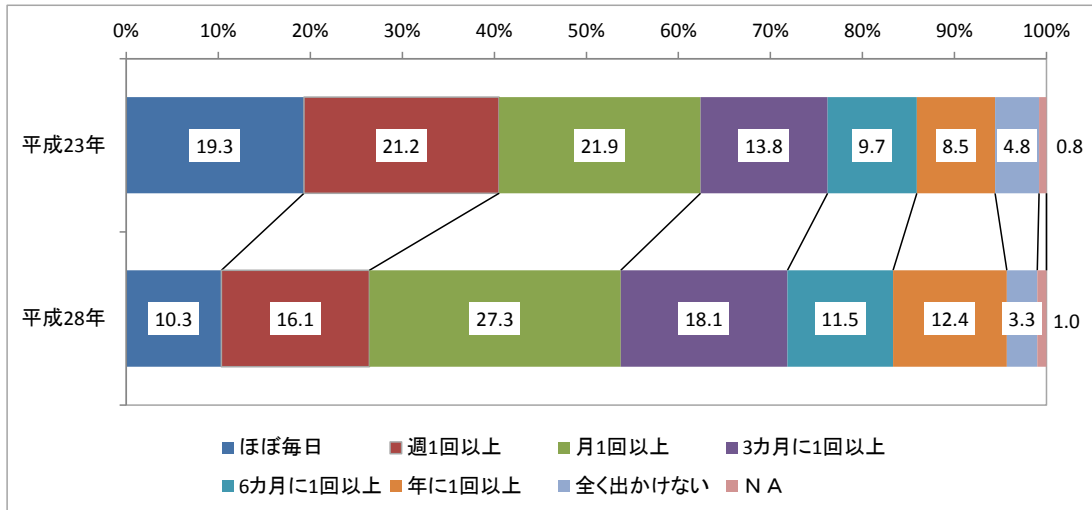


#### iv) 中心市街地への来街頻度

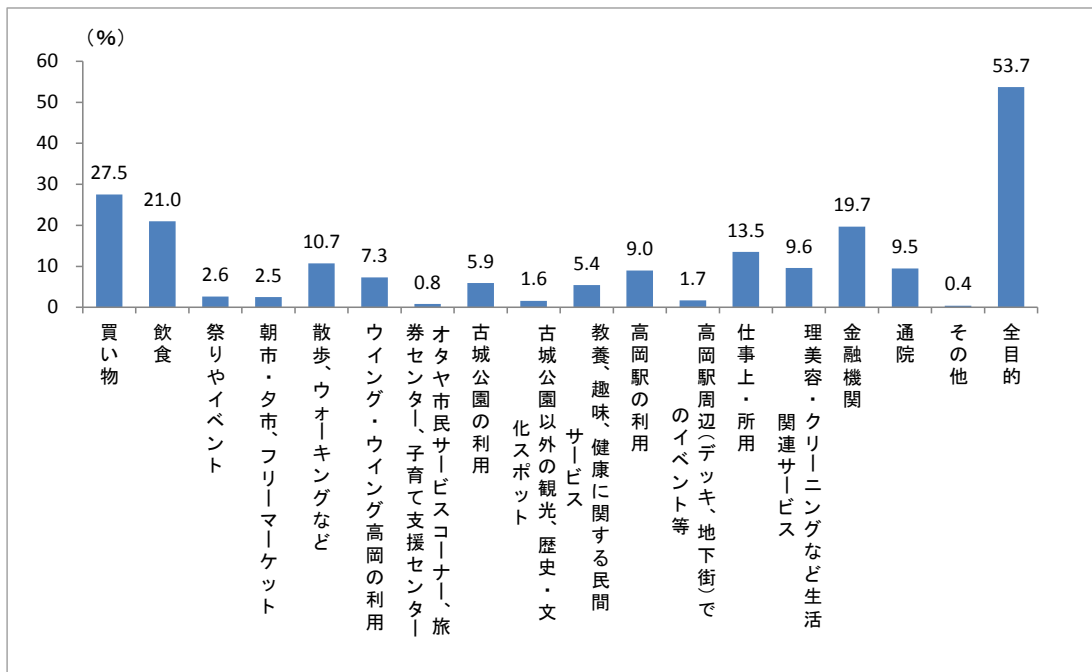
何らかの目的で中心市街地に出かける頻度は、「ほぼ毎日」で全回答者の約1割、「週に1回以上」で約3割、「月に1回以上」で約5割、「3カ月に1回以上」で約7割、「6カ月に1回以上」で約8割となり、「全く出かけない」人の割合は3.3%にとどまる。即ち、ほぼ全市民が何らかの目的で最低でも1年に1回は中心市街地を訪れていることになる。但し、平成23年に実施したアンケート結果と比較して、中心市街地への来街頻度はやや低下している。

目的別の来街頻度については、当該行動の実施頻度が異なることから一概には言えないが、「買い物」および「飲食」目的による来街頻度が高く、これらが中心市街地への主要な来街誘因となっている。

### 来街頻度（全目的）



### 1か月に1回以上来街する人の割合（目的別）



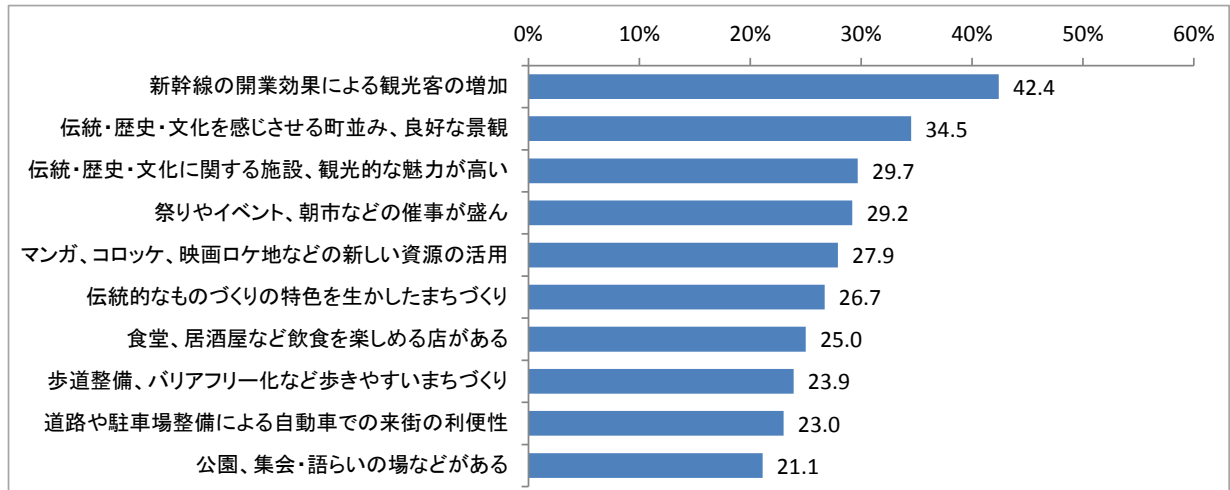
### v) 中心市街地に対する現状認識及び改善の評価

中心市街地の現状認識および改善状況について項目別に尋ねたところ、現状については全体では高く評価する人よりも低く評価する人の割合が高くなっているが、「新幹線の開業効果による観光客の増加」のほか、「歴史的な町並み、景観」「祭り・イベントの実施」「マンガやコロケ等の新しい資源を活かしたまちづくり」において市民の評価が比較的高く、中心市街地の歴史・文化や高岡らしい特徴を活かしたまちづくり、誘客の取り組みが評価されている。

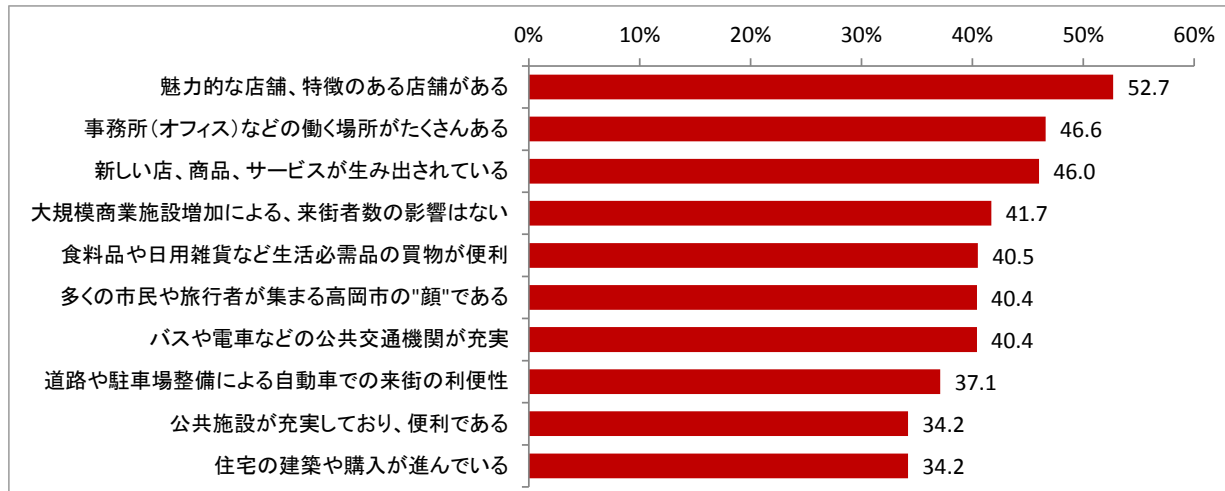
また、「歩行環境の整備」については、現状及び改善状況いずれも評価が高くなっており、また、「交通利便性」「観光スポットや店舗などの情報発信」といった都市機能については、現状の評価が十分に高まっているとは言えないまでも「改善している」との評価がなされている。このことから、中心市街地活性化に向けた各種環境整備の取り組みが、市民に浸透してきていることがうかがわれる。

他方、「業務機能」「店舗・新サービス」といった商業的、経済的な側面については総じて現状に対する評価が低いことに加え、「以前よりも悪化した」とする回答が多く、商業・産業面における中心市街地活性化の取り組み強化が求められていると言える。

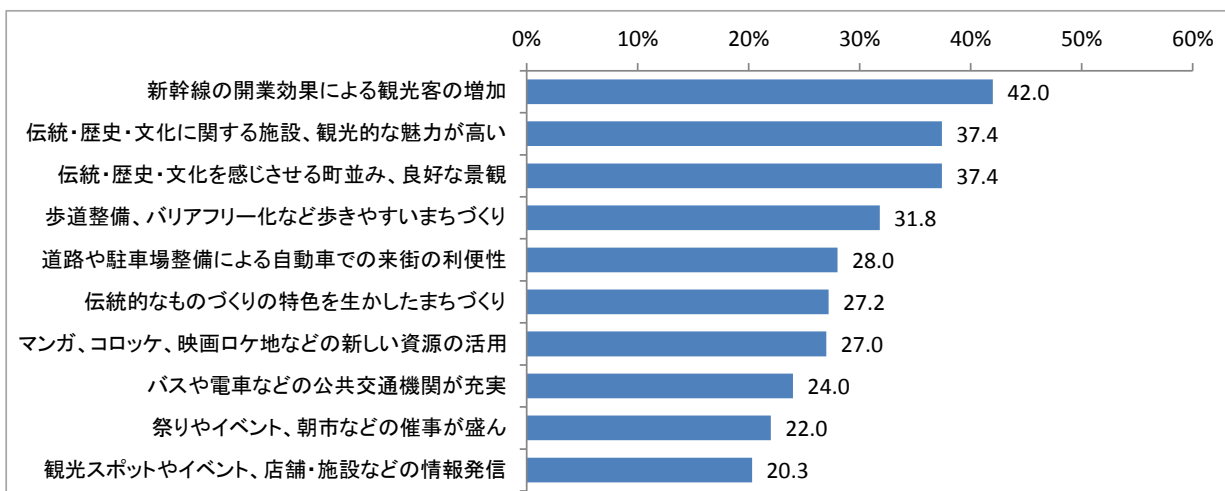
### 中心市街地の現状として比較的評価が「高い」項目



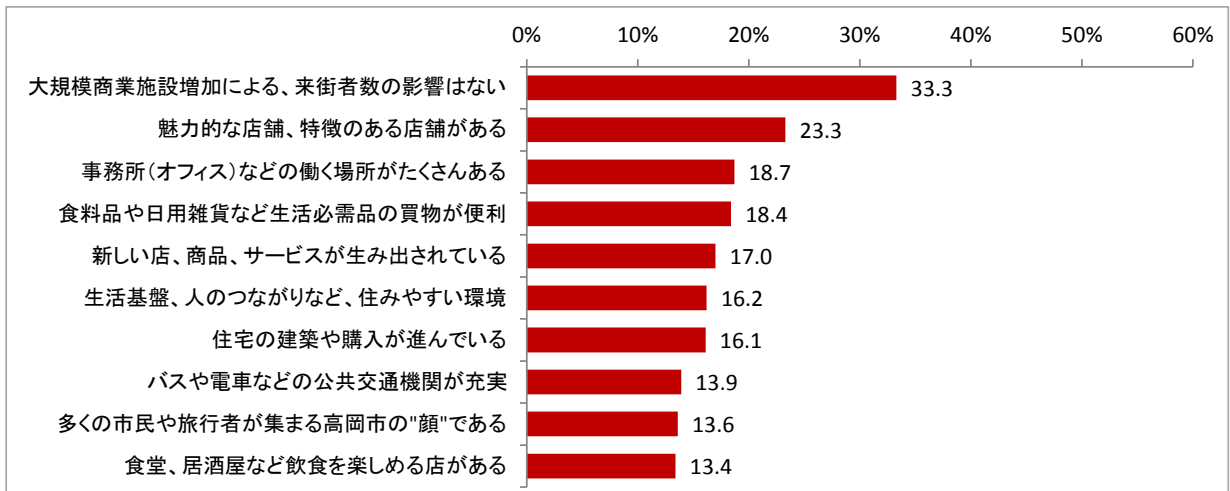
### 中心市街地の現状として評価が「低い」項目



### 中心市街地において「改善した」とする回答が多くみられた項目



### 中心市街地において「悪化した」とする指摘が多くみられた項目

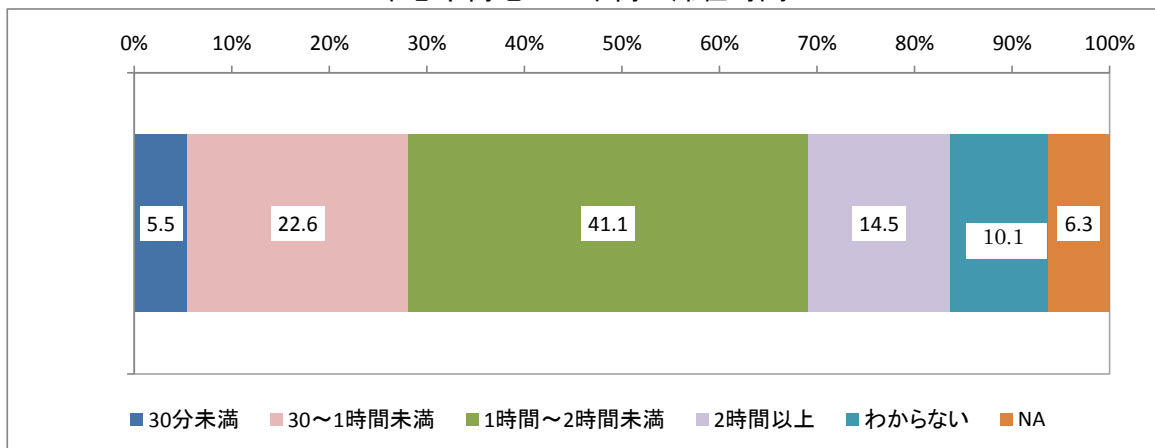


#### vi) 中心市街地への来街者の滞在時間

来街者の滞在時間については、回答者の 55.6%が「1時間以上」としており、「1時間未満」とした回答割合(28.1%)を大きく上回っている。さらに、回答者の 14.5%は「2時間以上」滞在する、としている。来街頻度がやや低下している中において、来街者の多くは滞在時間が比較的長いと言える。

なお、1カ月に1回以上来街する人の目的(P26)を見ると商業、教養、文化、娯楽と幅が広く、中心市街地内における多様な機能空間が、長い滞在時間に繋がっていると推察される。

#### 中心市街地への来街の滞在時間

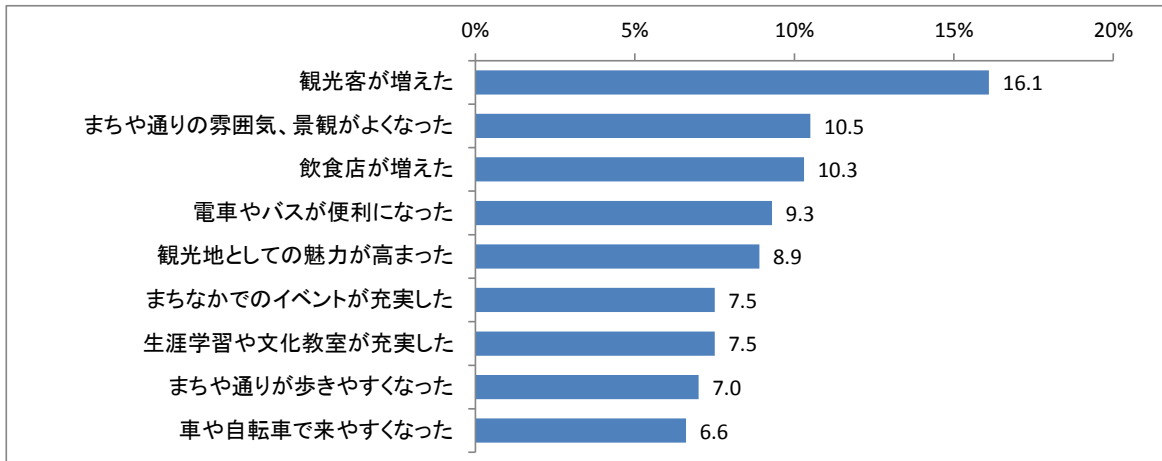


#### vii) 中心市街地活性化の取り組みに対する評価

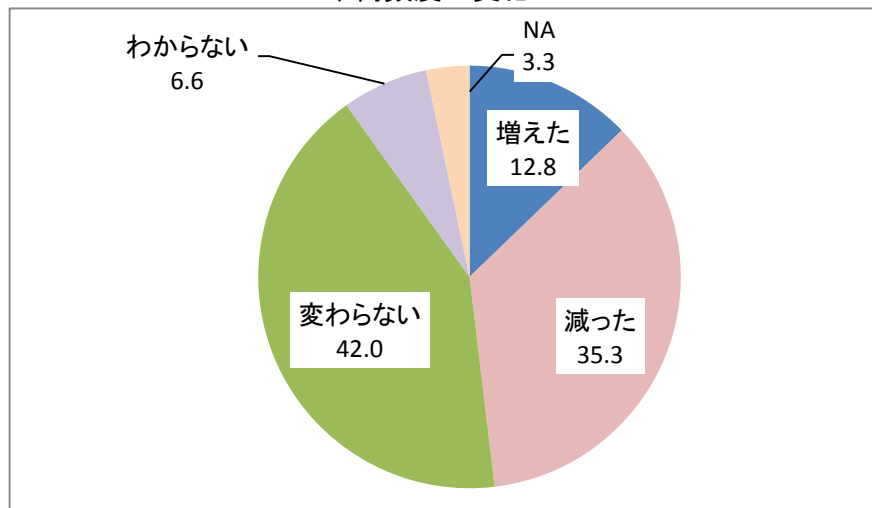
これまでの中心市街地活性化の取り組みに対し、「観光客数」「まちの雰囲気・景観」「飲食店」「交通利便性」「観光地としての魅力」について「良くなっている」との評価が比較的多くなっている。

また、来街頻度の変化については、全体では「減少」が「増加」を約 23 ポイント上回り 35.3%となっている。来街頻度が変化した主な「来街目的」をみると、「減少」では「買物」「飲食」、「増加」では「祭りやイベント」「古城公園」とした回答が多かった。

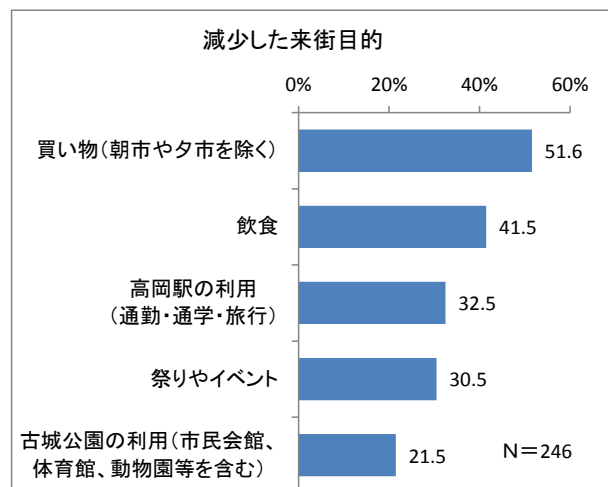
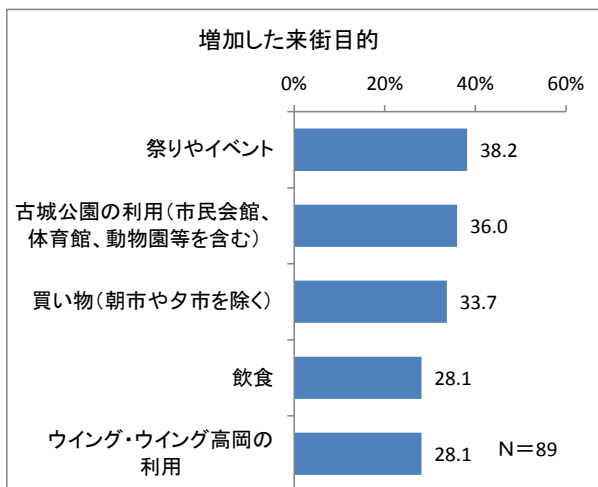
### 中心市街地で「良くなった点」



### 来街頻度の変化



### 頻度が変化した来街目的





## ②まちなか居住者アンケート調査

i) 調査実施時期：平成 28 年 8 月 5 日～8 月 24 日

### ii) 調査対象・方法

中心市街地及びその周辺部（平米地区、定塚地区、下関地区、博労地区、川原地区、成美地区の各一部）の 20 歳以上の居住者 1,500 名を無作為に抽出し、郵送配布・回収により調査を実施。666 人から回答を得た（回収率 44.4%）。

### iii) 中心市街地の居住環境に対する評価

地域の「住みよさ全般」については、84.9%が「住みよい・どちらかという住みよい」と回答し、平成 23 年に実施したまちなか居住者アンケート調査と同様の結果となった。

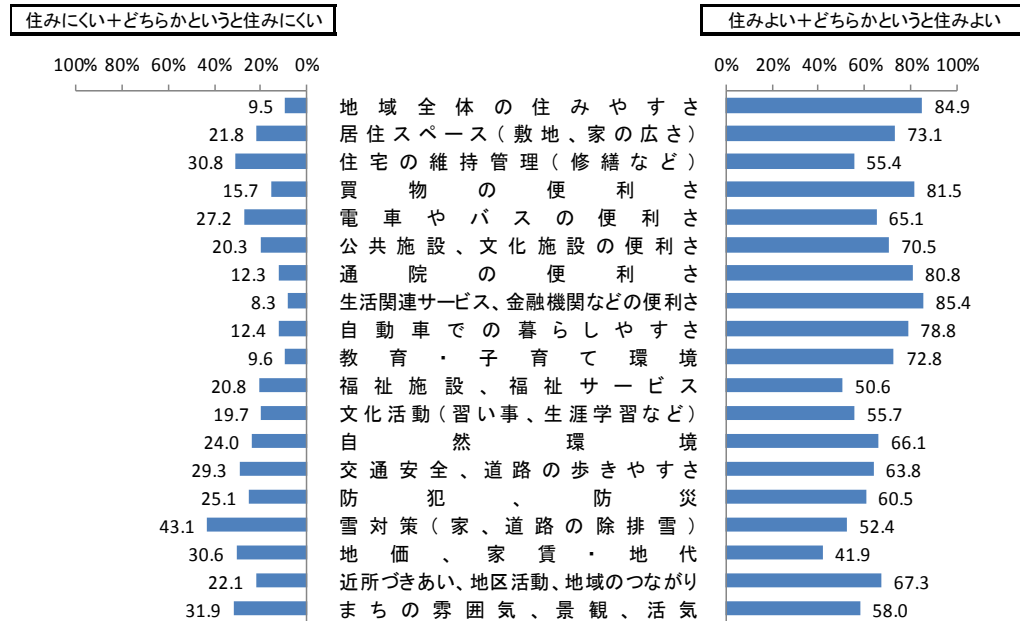
また、回答者全体の約 7 割が「今後もまちなかに居住したい」と回答し、市外を含めたまちなか以外への移転を希望する回答は約 1 割と極めて少なく、まちなかへの強い居住意向があることが確認された。

アンケートにおいて質問した項目のうち、「住みよい・どちらかと言えば住みよい」とする回答が半数を下回っているものは「地価、地代・家賃」（41.9%）のみとなり、中心市街地居住の高コスト構造が障害要因として指摘されている。

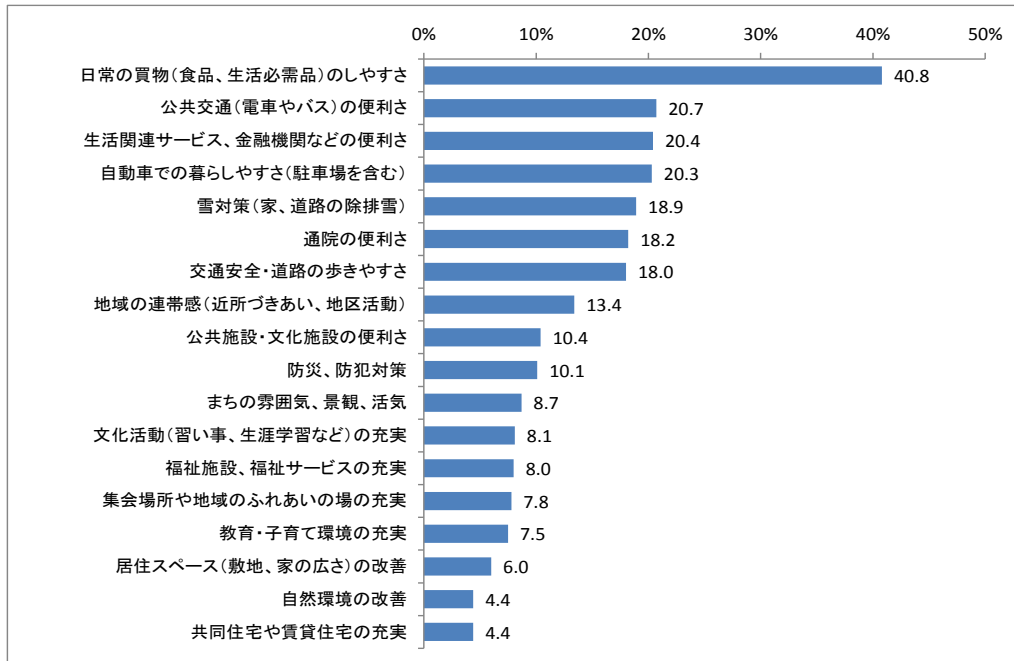
また、「公共交通（電車やバス）の便利さ」「自動車での暮らしやすさ（駐車場を含む）」「交通安全、道路の歩きやすさ」といった項目は、2 割程度の回答者が「改善した事項」として当該項目を選択していることから、市街地の整備・改善にかかる事業の実施や交通利便性の向上に向けた各種取り組みの成果が居住者に浸透したと考えることができる。

さらには、居住環境で改善した事項として「買物」が最も多く選択されており、平成 23 年 11 月に、高岡サティ跡地にホームセンターおよび食品スーパーが開店したほか、平成 26 年 3 月に、賑わいの創出やコミュニティ機能の再生を目指した新しいステーションビル「クルン高岡」がオープンしたことや、定期的で開催している朝市・夕市等の日常生活品の購入機会の提供が、中心市街地居住者の日常生活を支える手段として評価されているものと解することができる。

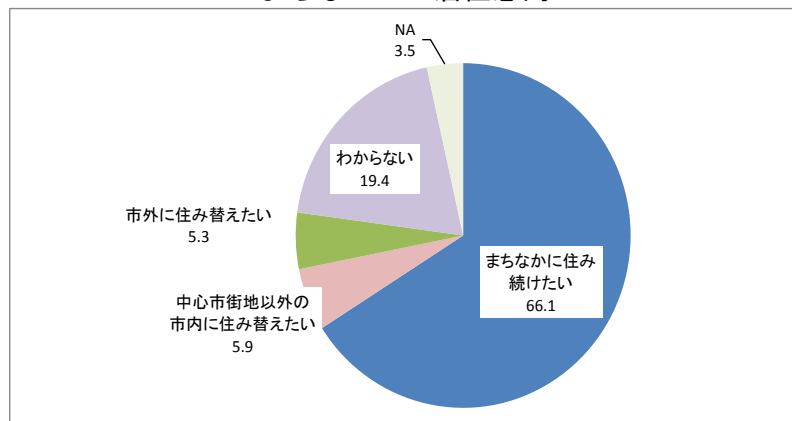
## 中心市街地の住みよさ



### まちなかの居住環境について「良くなったもの」



### まちなかへの居住意向



## 6. 今後の取組

### ①行き交う人で賑わうまち

中心市街地には高岡市を代表する数多くの歴史的、文化的資産が保存、継承されている。近年においても、金屋町の重要伝統的建造物群保存地区への選定（平成 24 年）、高岡城跡（高岡古城公園）の国史跡指定（平成 27 年）、「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡一人、技、心」の日本遺産の認定（同年）、高岡御車山祭のユネスコ無形文化遺産登録（平成 28 年）と、対外的な評価は十分であり、この豊かな歴史的価値を活かした観光施策、地域振興策を展開していくことが重要である。

高岡市の基幹産業は製造業であり、観光産業が未熟であったが故に、県外からの来訪者に対し満足いくもてなしが出来ていたとは言い難いものの、北陸新幹線の開業や 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに伴うインバウンド需要なども組み合わせれば、中心市街地における観光業の伸びしろは十分にあるものと考ええる。

また、富山県西部地域における、地域交通体系が高岡市中心市街地に属する高岡駅を中心に形成されていること、北陸新幹線の停車駅が高岡市にだけあること、連携中枢都市圏の形成などにより、広域的な展開における中心市街地の役割と重要性が高まっている。

圏域ネットワークの一層の強化を図り、交流・交通結節機能の充実、教育・業務・医療の

各分野における人材育成や域内交流、「歴史と文化」と「ものづくり」を活かした観光誘客などに取り組むことにより“行きたくなる”まちづくりを進め、交流人口の拡大を図り、行き交う人で賑わうまちなかを創出していく。

## ②住む人、働く人で賑わうまち

道路網の充実と車社会の進展、ライフスタイルの変化等に伴い、商業機能における中心市街地の中心性は相対的に低下し続けている一方で、居住性における住民の評価は高く、郊外部や周辺市街地に比べ都市インフラが充実していることは、今なお中心市街地に一定のアドバンテージを有しているものと考えられる。

また、少子高齢化や人口減少により、税収は低下している一方、市街地の拡大や多様な住民ニーズにより行政コストは増大しており、既存インフラが高度に集積する中心市街地を活用することは、コスト削減と効率的でコンパクトなまちづくりを進めていくために必要なことであると考えられる。

一方で、資本力に優れ、高い水準の品物を安価に提供できる郊外の大型店と同じ路線で対抗するのではなく、顧客へのきめ細やかなサービスや中心商店街ならではの体験・サービスなど、商業環境においても、独自性の高いまちづくりや郊外店との差別化を図る取り組みが必要となっている。

こうした社会情勢を踏まえ、また、まちなかの優位性を活かして居住人口の増加を図るため、道路改良や住宅改修支援など、住宅密集地の環境改善に取り組み、空き地・空き家の解消に努めるとともに、都市型の生活を志向する方や、公共交通を通勤手段とする方などをターゲットとする集合住宅の整備促進など、“住みたくなる”まちづくりを展開する。

加えて、商店街の空き店舗を活用した物販、飲食、サービス等やオフィスの新規開業を支援し、商業機能の充実や新規創業による創業活動の活性化を促進させ、居住者への生活サービスと来街者への魅力向上を図るとともに、民間活力と連動した、官民一体によるまちづくりを推進し、住む人、働く人で賑わうまちなかを創出していく。

## (参考)

### 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大	主要観光施設における観光客入込数	1,168,748人	1,380,000人	1,236,808人	平成29年2月	B
まちなか居住の推進	中心市街地における居住人口	16,360人	16,500人	14,965人	平成29年5月	C
中心商店街の賑わい創出	中心商店街(6地点)における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値	11,648人	14,900人	14,949人	平成28年12月	A
	中心商店街(3商店街)における空き店舗数	23件	15件	22件	平成28年12月	B

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

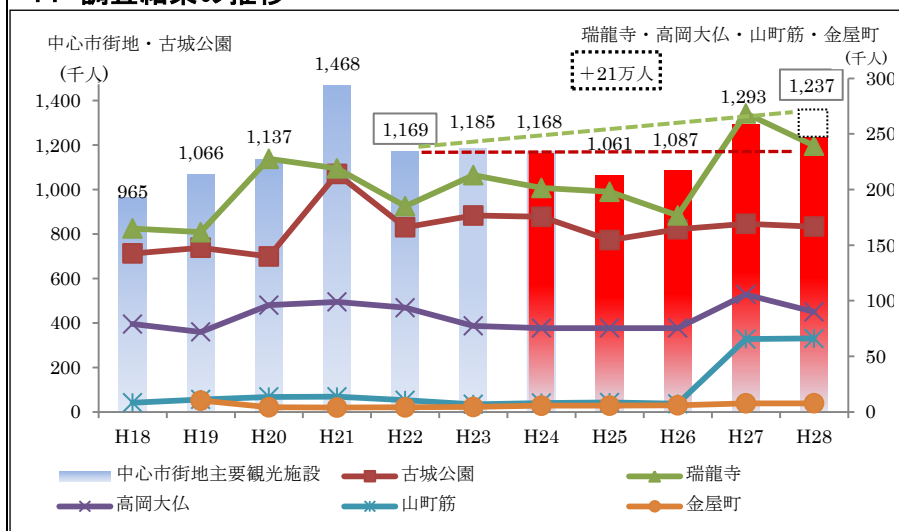
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

## 個別目標

「主要観光施設における観光客入込み数」  
※目標設定の考え方基本計画 P69～P70 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位：人/年)
H22	1,168,748 (基準年値)
H23	1,184,889
H24	1,168,091
H25	1,060,533
H26	1,086,955
H27	1,293,483
H28	1,236,808
H28	1,380,000 (目標値)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	目標値
古城公園	830,400	883,100	877,500	772,900	821,500	846,000	833,500	946,400
瑞龍寺	230,030	212,934	201,400	197,950	176,690	268,388	239,435	245,450
高岡大仏	93,700	77,440	75,500	75,500	75,500	105,700	90,000	100,000
山町筋 (菅野家・土蔵造りの まち資料館・高岡御 車山会館)	10,502	6,926	8,102	8,549	7,295	65,581	66,057	44,282
金屋町 (鑄物資料館)	4,116	4,489	5,589	5,634	5,970	7,814	7,816	7,046
施設計	1,168,748	1,184,889	1,168,091	1,060,533	1,086,955	1,293,483	1,236,808	※1,379,678

※北陸新幹線開業効果による観光施設全体の増加目標値 36,500 人を含む

※調査方法：施設毎の入込数を集計

※調査月：1月～12月

※調査主体：高岡市

※調査対象：高岡古城公園、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋（菅野家・土蔵造りのまち資料館、高岡御車山会館）、金屋町（鑄物資料館）

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ① 高岡古城公園整備事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画（高岡駅周辺地区） 平成 24 年度
事業開始・完了 時期	平成24年度【済】
事業概要	高岡古城公園の園路の舗装整備や施設の改修を行うとともに、水濠の水質改善を進め、高岡市の歴史的資産である高岡古城公園の回遊性の向上や良好な景観形成を図る。
目標値・最新値	高岡古城公園観光客入込数 目標値：946千人 最新値：834千人

達成状況	基準値は超えたものの目標値には達しなかった。
達成した（出来なかった）理由	北陸新幹線の開業効果を見越して目標値を高め設定していたが、瑞龍寺など他の施設のような大きな波及効果は見られず、現状維持に留まることとなった。
計画終了後の状況（事業効果）	園路舗装により、車椅子やベビーカーでの走行が容易となり、園内の回遊性が高まった。
高岡古城公園整備事業の今後について	実施済み。

②. 高岡城跡詳細調査事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	埋蔵文化財等補助事業 平成20年度～平成24年度
事業開始・完了時期	平成20年度～平成24年度【済】
事業概要	高岡城跡の国史跡への指定を目指して、遺構・遺物資料、文献資料等の調査からなる、高岡城の学術的価値や特徴を明らかにするための学術調査を行う。
目標値・最新値	高岡古城公園観光客入込数 目標値：946千人 最新値：834千人
達成状況	基準値は超えたものの目標値には達しなかった。
達成した（出来なかった）理由	平成24年度末に調査を総括した『富山県高岡市高岡城跡詳細調査報告書』が刊行され、高岡城の歴史的価値の高さが証明されたことが観光客入込数の増加に貢献した。一方、北陸新幹線の開業効果を見越して目標値を高め設定していたが、瑞龍寺など他の施設のような大きな波及効果は見られず、現状維持に留まることとなった。
計画終了後の状況（事業効果）	平成27年3月10日に官報告示され、国史跡に指定されたことで、高岡古城公園としてだけではなく城跡としても認知されるようになってきた。国史跡指定を契機に、高岡城跡の保存と活用、整備への期待が高まった。
高岡城跡詳細調査事業の今後について	実施済み。

③. 高岡御車山会館建設事業（高岡市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画（高岡駅周辺地区）） 平成24年度～平成26年度
事業開始・完了時期	平成24年度～平成27年度【済】
事業概要	重要有形・無形民俗文化財の高岡御車山（祭）を通年観覧できる展示館を建設し、本市の観光拠点、中心市街地の活性化を図り、魅力ある観光のまちづくりを推進する。
目標値・最新値	山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館）への観光客の増加 目標値：31,000人

	最新値：8,482人
達成状況	目標は達成しなかったが、観光客入込数の向上に貢献している。 平成27年度 会館完成 事業進捗率100% 参考：平成28年御車山会館観覧者数：57,575人
達成した（出来なかった）理由	高岡御車山会館の観覧者数は見込み（30,000人）より多かったが、指標とした周辺2施設への回遊性波及効果が見込みよりも低かったため、目標を達成しなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	本市の主要な観光資源でありつつも毎年5月1日（宵祭4月30日）にしか楽しむことのできなかった「高岡御車山（祭）」について、通年で観覧（体験）できる本市観光の拠点となり、また、観光誘客に資する施設となっている。
高岡御車山会館建設事業の今後について	実施済み。

④. 平成の御車山制作事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画（高岡駅周辺）） 平成24年度～平成28年度
事業開始・完了時期	平成24年度～平成28年度【実施中】 （平成29年度完成予定）
事業概要	高岡で守られてきたものづくりの伝統と技術を次世代へ継承し、また、広く全国へ発信するため、高岡に息づく金工・漆工・木工等の伝統工芸技術の粋を集めた平成の御車山を制作する。
目標値・最新値	山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館）への観光客の増加 目標値：31,000人 最新値：8,482人
達成状況	目標は達成しなかったが、観光客入込数の向上に貢献している。 参考：平成28年御車山会館観覧者数：57,575人
達成した（出来なかった）理由	高岡御車山会館への来館者は30,000人と見込んでいたことから、平成の御車山制作事業が高岡御車山会館への来館者数を見込みより増とする要因になったのではないかと推察する。しかしながら、指標とした周辺2施設への回遊性波及効果が見込みよりも低かったため、目標を達成しなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	制作状況は順調であり、平成29年度末の完成を目指している。完成後は、利活用により観光地の魅力を向上や伝統工芸技術の継承及び発信を行い、高岡御車山会館を含めた山町筋への回遊性向上による来場者増を目指す。
平成の御車山制作事業の今後について	平成29年度末完成予定。

⑤. 金屋町重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業（事業主体：高岡市〔補助事業者への間接補助〕）

支援措置名及び支援期間	国宝重要文化財等保存整備等事業補助金 平成25年度～
事業開始・完了時期	平成25年度～【実施中】
事業概要	金屋町は高岡鑄物発祥の地であり、現在も干本格子と呼ばれるさまのこ（狭間虫籠）が特徴的な町家が今に残る。金屋町の伝統的建造物等の

	修理及び修景事業を実施し、歴史的景観の向上や賑わいの創出を図る。
目標値・最新値	鋳物資料館観光客入込数 目標値：4,116人 最新値：7,816人
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	本事業による歴史的景観の向上が街の魅力を向上させ、来街者の増加に貢献した。
計画終了後の状況（事業効果）	金屋町への観光のみならず、近隣にあるもう一つの重要伝統的建造物群保存地区である山町筋への回遊性向上にも寄与している。
金屋町重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業の今後について	今後も継続して実施する予定としている。

⑥. 金屋町鋳物工場跡地整備事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業） 平成26年度
事業開始・完了時期	平成26年度～平成28年度【未】
事業概要	高岡鋳物発祥の地・金屋町に残り、鋳物・銅器産業を象徴する遺産である鋳物工場の復元・修理に取り組み、資材保存及び見学・体験交流施設として活用を図る。
目標値・最新値	鋳物資料館観光客入込数 目標値：4,116人 最新値：7,816人
達成状況	目標を達成した。（事業自体は中止。他の事業の効果によるものと推測する）
達成した（出来なかった）理由	平成26年度の健全度調査の結果、建造物の劣化が著しく進んでいたことが判明した。公共利用を図るには建物を取り壊すしかないとの結論に達したことから事業を中止した。
計画終了後の状況（事業効果）	未実施のため事業の効果はない。
金屋町鋳物工場跡地整備事業の今後について	事業中止。

⑦. 金屋町楽市開催事業（事業主体：金屋町楽市実行委員会）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成24年度～平成28年度
事業開始・完了時期	平成20年度～【実施中】
事業概要	高岡の地場産業である銅器工芸を生活空間に生かした、生活、工芸、産業が同居するゾーンミュージアムイベントを金屋町で開催する。富山大学芸術文化学部が持つ知的財産と高岡に息づく伝統技術の融合を図り、新たなものづくりの在り方を発信する。

目標値・最新値	イベント来場者数の増加 目標値：24,000人 最新値：26,500人（平成28年）
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	関係団体と協力し、展示や各イベントの質の向上に努めることにより、リピーターが増加していると思われる。また、平成28年度初めての試みとして、市内の2つのクラフトイベント（高岡クラフト市場街、工芸都市高岡クラフトコンペティション）と同時開催したことにより回遊性が高まり、来場者数が増加した。
計画終了後の状況（事業効果）	年間を通しての金屋町の観光客数の増加に寄与し、町の魅力向上に繋がった。
金屋町楽市開催事業の今後について	今後も継続して実施する予定としている。 体験型ワークショップの質の向上や、より広範囲へのPRをはかる。

⑧. 金屋町観光駐車場・トイレ整備事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成25年度～平成27年度【済】
事業概要	金屋町（及び山町筋）における観光客の増大と滞留時間の延長を図る。
目標値・最新値	金屋町（鑄物資料館）への観光客の増加 目標値：4,116人 最新値：7,816人
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	本市主要観光地のひとつである山町筋と金屋町の間地点に駐車場を整備したことで、当駐車場が2地域の回遊拠点となり、相乗効果が得られた。
計画終了後の状況（事業効果）	金屋町への観光客の利用者のみならず、山町筋への観光客の増にも寄与している。
金屋町観光駐車場・トイレ整備事業の今後について	実施済み。

⑨. たかまちプロムナード事業

（事業主体：たかまちプロムナード会議（商店街の若手・女性経営者など））

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成24年度～
事業開始・完了時期	平成24年度～【実施中】
事業概要	JR高岡駅を起点に末広町～御旅屋通り商店街を経て、高岡大仏前、坂下町商店街に至る通りに、地域資源や新たな素材を付加した通りを特徴付ける事業に取り組み、中心市街地のストリートビジョンと商店街の顔づくりの事業を実施する。
目標値・最新値	高岡大仏への観光客の増加（入込数）



	目標値：100,000人 最新値：90,000人
達成状況	最新値では目標を達成しなかったものの、観光客入込数の向上に貢献している。
達成した（出来なかった）理由	各商店街のストリートビジョンの設定とイベント（大仏ライトアップ、大仏むすび縁日等）の実施等、高岡大仏周辺への集客の向上を図ったことにより、個人客は増加した。平成27年度は新幹線開業効果もあり、目標値を上回った（105,700人）が、それ以降はバス利用の団体客が減ったこと等により目標の達成には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	目標数値は達成できなかったものの、大仏周辺には頻りに外国人観光客などが訪れ、周辺旅館の宿泊客数も好調であることから、集客に十分貢献しているものと認識している。
たかまちプロムナード事業の今後について	今後も継続して実施する予定としている。

⑩. 中心市街地ストリート回遊計画事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業、街なみ環境整備事業） 平成24年度～平成28年度
事業開始・完了時期	平成24年度～平成28年度【済】
事業概要	観光客が一定の時間内で楽しめるよう地域特性に応じたゾーニングを行い、歩く仕組みづくりのためのハード・ソフト事業を効果的に組み合わせつなぎ、歩いて楽しめるまちを創る。 道路修景整備、サイン整備、住民活動補助等
目標値・最新値	山町筋、金屋町、瑞龍寺の観光客の増加 目標値：18,640人 最新値：20,980人
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	山町金屋町道路整備や歩行者用サイン整備により中心市街地の回遊性の向上が図られ観光客の増加に寄与したと考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	山町金屋町道路整備や歩行者用サイン整備により道路景観の改善や観光客に対する利便性の向上が図られたことで安心して散策できる快適な歩行空間の創出に一定の効果があったと考えられる。
中心市街地ストリート回遊計画事業の今後について	実施済み。

⑪. 食のブランド化推進事業（事業主体：高岡食のブランド推進実行委員会）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画（新高岡駅周辺）） 平成26年度
事業開始・完了時期	平成23年度～【実施中】
事業概要	高岡の歴史、風土、食材等を踏まえた高岡らしい食を開発し、ホームページなどでの情報発信や各種イベントでの出品、協力店舗での提供に取り組む。

目標値・最新値	観光客の増加 目標値：36,500人 最新値：3,740,657(平成28年)－3,757,216(平成22年)＝▲16,559人
達成状況	目標を達成しなかったものの、観光客入込数の向上に貢献している。
達成した（出来なかった）理由	指標は高岡市の観光客入込数としてあるが、イベントも含まれており天候等不確定要素による増減幅が大きい。イベントを除いた観光施設の入込数で比較した場合、最新値：2,565,657－2,545,616＝20,041 となり、達成にはいたらないが増加傾向となり、目標値に近づいている。
計画終了後の状況（事業効果）	新幹線沿線都市における物産展参加では、昆布かまぼこなどはあつというまに売り切れるなど、知名度アップに貢献している。高岡コロッケについては市内外に認知されてきており、誘客の一助となっている。平成28年10月に龍ヶ崎で開催された第4回全国コロッケフェスティバルでは13道県33団体のなか3位になるなど活躍している。
食のブランド化推進事業の今後について	今後も継続して実施する予定としている。

⑫. 新幹線開業記念広告宣伝事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成25年度～【実施中】
事業概要	北陸新幹線開業を契機とする本市への誘客を図るため、出向宣伝や招へい、広告をはじめとする各種 PR 事業に取り組むもの。
目標値・最新値	観光客の増加 目標値：36,500人 最新値：3,740,657(平成28年)－3,757,216(平成22)＝▲16,559人
達成状況	目標を達成しなかったものの、観光客入込数の向上に貢献している。
達成した（出来なかった）理由	指標は高岡市の観光客入込数としてあるが、イベントも含まれており天候等不確定要素による増減幅が大きい。イベントを除いた観光施設の入込数で比較した場合最新値：2,565,657－2,545,616＝20,041 となり、達成にはいたらないが増加傾向となっている。
計画終了後の状況（事業効果）	観光客入込数は新幹線開業だけではなく、高岡御車山祭のユネスコ無形文化遺産登録や日本遺産認定などの要素もあることから、この広告宣伝事業のみでの効果検証はしにくいですが、当該事業を呼び水として引き続き観光誘客を図る。
新幹線開業記念広告宣伝事業の今後について	今後も継続して実施する予定としている。

⑬. 越中・飛騨観光圏事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	観光地域づくりプラットフォーム事業 平成24年度
事業開始・完了	平成22年度～平成26年度【済】

時期	
事業概要	越中・飛騨観光圏整備実施計画に基づき、富山県西部地域と岐阜県飛騨地域の観光素材を組み合わせ、磨き、育て、新たな観光ルートを形成し、国内外に地域の魅力を発信する。
目標値・最新値	観光客の増加 目標値：36,500人 最新値：3,740,657(平成28年)－3,757,216(平成22年)＝▲16,559人
達成状況	目標を達成しなかったものの、観光客入込数の向上に貢献している。
達成した（出来なかった）理由	指標は高岡市の観光客入込数としてあるが、イベントも含まれており天候等不確定要素による増減幅が大きい。イベントを除いた観光施設の入込数で比較した場合 最新値：2,565,657－2,545,616＝20,041人 となり、達成にはいたらないが増加傾向となっている。
計画終了後の状況（事業効果）	越中飛騨地域における広域観光の推進という観点から、宿泊魅力向上や滞在型観光の推進、各種キャンペーンを実施してきた。 計画終了後においては、飛越能経済観光都市懇談会において引き続き、飛騨・越中・能登における広域観光の推進による高岡市内への観光客増に取り組んでいる。
越中・飛騨観光圏事業の今後について	実施済み。

### 3.今後について

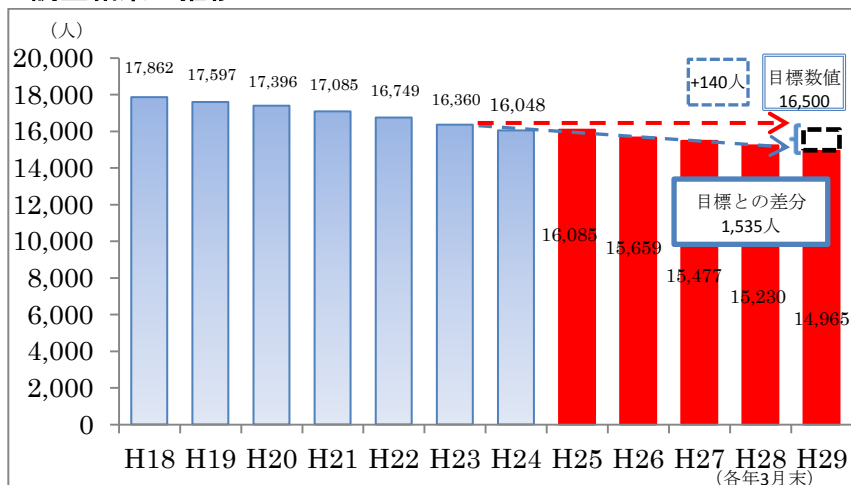
北陸新幹線の開業や新施設オープンに伴う回遊性波及効果が見込みより少なかったことや、イベント事業においては天候に恵まれなかったことなどが相まって、計画した目標の達成とはならなかったが、主要観光施設における観光客入込み数は増加傾向にあり、2期計画における観光イメージアップおよび中心市街地への観光客の呼び込みに一定の成果を上げていることから、各種取り組みの有効性が確認されたものと捉えている。3期計画においては、2期計画で効果の認められた事業を継続するとともに、新幹線の開業効果も徐々に薄れることが想定されることから、更なる観光地の魅力向上に資する拠点施設の整備や、集客力を高めるソフト事業に取り組む必要がある。

さらに、「日本遺産」の認定や「ユネスコ無形文化遺産」の登録を契機とする、歴史的建造物や伝統文化、工芸技術といった本市固有の特長を最大限に活かした商品開発やPR活動、増大しているインバウンド需要への対応等について、周辺市町村との広域連携も図りながら一層強化する必要がある。

個別目標

「中心市街地における居住人口」  
 ※目標設定の考え方基本計画 P79～P80 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H22	16,360 (基準年値)
H23	16,048
H24	16,085
H25	15,659
H26	15,477
H27	15,230
H28	14,965
H28	16,500 (目標値)

※調査方法：地区別世帯数及び人口集計表から集計  
 ※調査月：3月31日  
 ※調査主体：高岡市  
 ※調査対象：認定区域内に居住する人

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. まちなか住宅取得支援事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成19年度～平成28年度
事業開始・完了時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	高岡市が指定した「まちなかの区域」において、家屋の新築や、新築・中古住宅の取得、新築・中古分譲マンションの取得、隣地の取得を行う者に対し、費用の一部を支援する。 平成26年度からは、補助対象要件の緩和や補助対象エリアの拡大を行い、隣接土地の建築物除却支援を開始した。
目標値・最新値	中心市街地における居住人口 目標値：16,500人 最新値：15,230人
達成状況	目標を達成しなかったものの、居住人口増加に貢献している。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地では高齢者の人口割合が全市平均よりも高く、自然減が発生しやすい状況にあり、現行計画策定当初の予測を上回るペースで人口の減少が発生したことから、目標数値を下回った。
計画終了後の状況（事業効果）	本事業に対しては、計画期間中に延べ131件と見込みを上回る利用実績があり、約300人の居住人口増加・下支えに寄与している。
まちなか住宅取得支援事業の今後について	次期計画でも概ね同様の内容で継続して実施する予定としている。

②. まちなか共同住宅建設促進事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び	中心市街地活性化ソフト事業
---------	---------------

支援期間	平成 22 年度～平成 31 年度
事業開始・完了時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	高岡市が指定した「まちなかの区域」において、一定要件を踏まえた4戸以上の分譲又は賃貸による共同住宅を建設する者に対し、1戸あたり100万円（限度額5,000万円）を補助する。
目標値・最新値	中心市街地における居住人口 目標値：16,500人 最新値：15,230人
達成状況	目標を達成しなかったものの、居住人口増加に貢献している。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地では高齢者の人口割合が全市平均よりも高く、自然減が発生しやすい状況にあり、現行計画策定当初の予測を上回るペースで人口の減少が発生したことから、目標数値を下回った。
計画終了後の状況（事業効果）	平成24年度に分譲マンション1棟、賃貸マンション1棟が建設された。また、平成28年度にも賃貸マンション1棟が建設されており、居住人口の増加に寄与した。
まちなか共同住宅建設促進事業の今後について	次期計画でも概ね同様の内容で継続して実施する予定としている。

③. 中心商店街ミニ拠点開発事業（事業主体：民間）

支援措置名及び支援期間	中心商店街ミニ拠点開発事業 平成 26 年度～
事業開始・完了時期	平成26年度～平成30年度【実施中】
事業概要	高岡駅前中心商店街のメイン通りに面した街区の一面を商業施設及び住居の複合施設に再編し、来街者の利便性に寄与する公益施設として整備する。
目標値・最新値	中心市街地における居住人口の増加 目標値：16,500人 最新値：15,230人
達成状況	目標を達成しなかった。
達成した（出来なかった）理由	当該施設の着工が平成 28 年度末となり、入居者の実績数として反映できなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成28年度末に着工したところであり、現時点の計画では、商業・公益施設とあわせ98戸のファミリータイプのマンション整備予定であることから、平成30年度の完成後の事業効果が待たれる。
中心商店街ミニ拠点開発事業の今後について	今後も継続して実施する予定としている。

3. 今後について

今期計画においては、市全体平均に比べて中心市街地の少子高齢化が進んでいることもあり、当初の予測以上に人口減少が生じたことや、居住施設の着工が遅延したこと等により目標の達成には至らなかった。中心市街地における居住人口の増加は、歩行者通行量の増加や経済活動の活性化など、賑わいの創出に多大な恩恵をもたらすほか、コンパクトなまちづくりには不可

欠の要素であり、まちなか居住の推進は、従前の計画に引き続いて取り組んでいく必要がある。

中心市街地では、下関地区を除いて高齢者の人口割合が3割以上であり、居住人口において自然減少が多く見込まれる地域であるが、朝市・夕市の開催や日常生活に必要な店舗誘致を通じて生活利便を提供し、域外流出による社会減少を防止するとともに、若年層やファミリー層にも魅力的な商業空間づくりや子育て支援機能の充実、住環境の整備などに取り組んでいく必要がある。

平成29年春には、白金駐車場跡地に賃貸マンションが、平成31年春には、「中心商店街ミニ拠点開発事業」として事業を推進してきた末広西地区での分譲マンションと商業・公益施設の複合ビルが完成する見込みであり、更には高岡駅前東地区においてもマンション建設が見込まれるなど、まちなかでの集合住宅の建設の動きも活発化している。

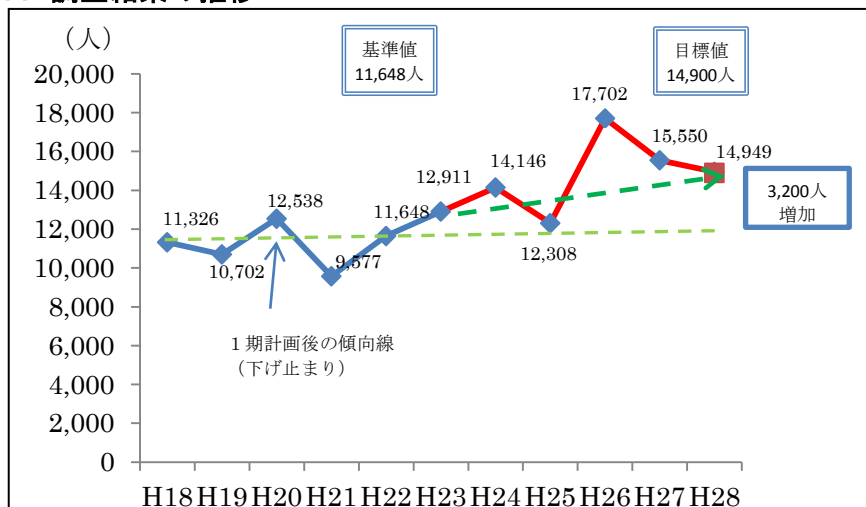
一方で、中心市街地では狭隘な土地に古い住宅が密集し、住居と空き家が混在していることに加え、地籍境界の未確定、借地権や固定資産税等の問題により、まとまった広さの敷地を確保することが困難なことから、空き家について利活用を含めた総合的な対策や、まちなかでの防災対策の強化に取り組む必要がある。

## 個別目標

「中心商店街（6地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値」

※目標設定の考え方基本計画 P85 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位：人/日)
H22	11,648 (基準年値)
H23	12,911
H24	14,146
H25	12,308
H26	17,702
H27	15,550
H28	14,949
H28	14,900 (目標値)

※調査方法：平日・休日の歩行者・自転車通行量を計測

※調査月：10月

※調査主体：高岡市

※調査対象：中心商店街（6地点）

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ①. 高岡駅交通広場整備事業

(万葉線延伸部走行空間整備事業 [(万葉線) 路面電車走行空間、交通広場整備事業])

(事業主体：高岡市)

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路）） 平成19年度～平成25年度
事業開始・完了時期	平成19年度～平成25年度【済】
事業概要	高岡駅周辺整備事業の一環として、公共交通相互の乗り換えの利便性の向上を図るため、万葉線の延伸にかかる路面走行空間及び電停の整備を行う。
目標値・最新値	中心市街地（6地点）における歩行者・自転車通行量の目標値 目標値：14,900人 最新値：14,949人
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	平成26年3月の高岡ステーションビルの改築オープンとの相乗効果により、駅周辺エリアの回遊性が増し、通行者の増につながった。
計画終了後の状況（事業効果）	JRと万葉線の乗り換えの利便性および公共交通等の待合の快適性が向上した。
高岡駅交通広場整備事業の今後について	実施済み。

#### ②. 高岡駅北口駅前広場整備事業（高岡駅佐加野線（北口駅広））（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路）） 平成16年度～平成30年度
-------------	--

事業開始・完了時期	平成16年度～【実施中】
事業概要	高岡駅周辺整備事業の一環として、ロータリーの見直し等による北口交通広場の再整備を行うもの。
目標値・最新値	中心市街地（6地点）における歩行者・自転車通行量の目標値 目標値：14,900人 最新値：14,949人
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	平成26年3月の高岡ステーションビルの改築オープンとの相乗効果により、駅周辺エリアの回遊性が増し、通行者の増につながった。
計画終了後の状況（事業効果）	公共交通機関相互の乗り換えの利便性の向上と安全で快適な歩行空間の確保等が図られた。
高岡駅北口駅前広場整備事業の今後について	今後も継続して実施する予定としている。 自転車による駅利用者の便益をはかるため、平成29年度に駅前東駐輪場の整備を行う。

③. 高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路）） 平成16年度～平成25年度
事業開始・完了時期	平成16年度～平成25年度【済】
事業概要	高岡駅周辺整備事業として駅周辺の機能強化に一体的に取り組む中で、交通機関相互の乗り換え利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、北口歩行者専用道の整備を行う。
目標値・最新値	中心市街地（6地点）における歩行者・自転車通行量の目標値 目標値：14,900人 最新値：14,949人
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	平成26年3月の高岡ステーションビルの改築オープンとの相乗効果により、駅周辺エリアの回遊性が増し、通行者の増につながった。
計画終了後の状況（事業効果）	南北市街地の連携強化と安全で快適な歩行空間の確保とが図られた。
高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備事業の今後について	実施済み。

④. 新高岡ステーションビル建設事業（事業主体：㈱高岡ステーションビル）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成24年度～平成25年度【済】
事業概要	富山県西部地域の交通結節点であるJR高岡駅に隣接する高岡ステーションビルの全面改築を行う。



目標値・最新値	中心市街地（6地点）における歩行者・自転車通行量の目標値 目標値：14,900人 最新値：14,949人
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	平成26年3月に高岡ステーションビルおよび地下街が改築オープンし、駅周辺エリアの回遊性が増し、通行者の増につながった。
計画終了後の状況（事業効果）	駅利用者の便益が図られた。
新高岡ステーションビル建設事業の今後について	実施済み。

⑤. 高岡駅地下街リニューアル事業（事業主体：㈱高岡ステーションビル）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路）） 平成24年度～平成25年度
事業開始・完了時期	平成24年度～平成25年度【済】
事業概要	高岡駅北口駅前広場整備に合わせ、商業施設・多目的交流施設等を整備するもの。
目標値・最新値	中心市街地（6地点）における歩行者・自転車通行量の目標値 目標値：14,900人 最新値：14,949人
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	平成26年3月に高岡ステーションビルおよび地下街が改築オープンし、駅周辺エリアの回遊性が増し、通行者の増につながった。
計画終了後の状況（事業効果）	観光客や待ち合わせなど多様な集客が図られた。
高岡駅地下街リニューアル事業の今後について	実施済み。

⑥. 高岡市子育て支援センター運営事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	子育て支援交付金 平成23年度～平成28年度
事業開始・完了時期	平成23年度～【実施中】
事業概要	本市の子育て支援の拠点施設として以下の業務を行う。 ・子育て親子の交流促進と交流の場の提供 ・子育てに関する相談の実施 ・子育て関連の情報提供や講習会の実施 ・子育てサークル・ボランティアの育成支援
目標値・最新値	高岡子育て支援センター及び北日本新聞カルチャーパーク利用者が中心商店街を回遊する増加数 目標値：100人 最新値：100人

達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	子育て支援センターのオープン以来、ワークショップや各種育児教室の開催、一時預かりなど、子育て世帯のニーズに合わせたさまざまな取り組みを実施したことにより、利用者が増加したため。
計画終了後の状況（事業効果）	若い親子や3世代の家族連れが、中心市街地へ来訪する機会を増加させている。
高岡市子育て支援センター運営事業の今後について	今後も継続して実施する予定としている。 利用者増につながるような新たな取り組みや、ハード面での整備を行っていききたい。

⑦. たかまちプロムナード事業

（事業主体：たかまちプロムナード会議（商店街の若手・女性経営者など））

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成24年度～平成28年度
事業開始・完了時期	平成24年度～【実施中】
事業概要	JR 高岡駅を起点に末広町～御旅屋通り商店街を経て、高岡大仏前、坂下町商店街に至る通りに、地域資源や新たな素材を付加した通りを特徴付ける事業に取り組み、中心市街地のストリートビジョンと商店街の顔づくりの事業を実施する。
目標値・最新値	たかまちプロムナード事業及び中心市街地ストリート回遊計画事業による歩行者増加数 （対象エリア：高岡大仏、瑞龍寺、山町筋、金屋町） 目標値：220人／日 増 最新値：534人／日 増
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	各商店街のストリートビジョンの設定とイベントの連携実施等により回遊性の向上（例：「大仏むすび縁日」と「山町土蔵造りフェスタ」を同日開催）を図った結果、高岡御車山会館をはじめとするハード整備との相乗効果も生まれ、観光地周辺部の歩行者数を大幅に増加させることができた。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなかの回遊性の向上が図られ、高岡大仏をはじめとする観光拠点の集客に貢献している。
たかまちプロムナード事業の今後について	今後も継続して実施する予定としている。

⑧. 中心市街地ストリート回遊計画事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業、街なみ環境整備事業） 平成24年度～28年度
事業開始・完了時期	平成24年度～28年度【済】
事業概要	観光客が一定の時間内で楽しめるよう地域特性に応じたゾーニングを行い、歩く仕組みづくりのためのハード・ソフト事業を効果的に組み合わせつつなぎ、歩いて楽しめるまちを創る。 道路修景整備、サイン整備、住民活動補助等

目標値・最新値	中心商店街の歩行者・自転車通行量（たかまちプロムナード事業含む） 目標値：220人 最新値：220人
達成状況	目標を達成した。
達成した（出来なかった）理由	山町金屋町道路整備や歩行者用サイン整備により、中心市街地の回遊性の向上が図られ、観光客の増加に寄与したと考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	山町金屋町道路整備や歩行者用サイン整備により道路景観の改善や観光客に対する利便性の向上が図られたことで、安心して散策できる快適な歩行空間の創出に一定の効果があったと考えられる。
中心市街地ストリート回遊計画事業の今後について	実施済み。

⑨. 中心商店街ミニ拠点開発事業（事業主体：民間）

支援措置名及び支援期間	中心商店街ミニ拠点開発事業 平成26年度～
事業開始・完了時期	平成26年度～平成30年度 【実施中】
事業概要	高岡駅前中心商店街のメイン通りに面した街区の一面を商業施設及び住居の複合施設に再編し、来街者の利便性に寄与する公益施設として整備する。
目標値・最新値	中心市街地における居住人口の増加 目標値：16,500人 最新値：15,230人
達成状況	目標を達成しなかった。
達成した（出来なかった）理由	当該施設の着工が平成28年度末となり、入居者の実績数として反映できなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成28年度末に着工したところであり、現時点の計画では、商業・公益施設とあわせ98戸のファミリータイプのマンション整備予定であることから、平成30年度の完成後の事業効果が待たれる。
中心商店街ミニ拠点開発事業の今後について	今後も継続して実施する予定としている。

3. 今後について

通行量による賑わい創出においては、「高岡駅周辺整備事業」の完成により、高岡駅の交通結節点としての拠点性の向上並びに南北自由通路の整備による、南北市街地の一体化が図られ、高岡駅前において歩行者通行量が飛躍的に増加したことから、目標値を達成することができた。

しかしながら、北陸新幹線の開業に伴う高岡駅発着の特急列車の廃止により、乗降客数が減少したことにより、高岡駅前においても通行量は減少傾向にあることから、隣接する高岡駅前東地区の整備を進めるなど、更なる拠点性を高める取組みが必要である。併せて、通行量が増加した高岡駅や、観光客が増加している観光地周辺から中心商店街への回遊させることが重要であり、今後は回遊性向上に向けた取組みを更に強化していく必要がある。

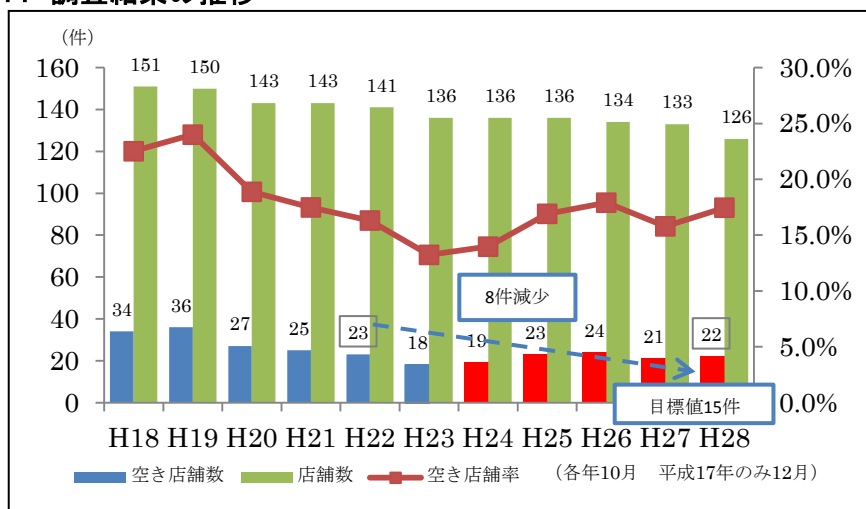
また、日常的に通行量を増加させる取組みとして、中心市街地内の居住者や昼間人口を増やすため、まちなか居住の推進と業務機能（オフィス）の誘導に引き続き取り組んでいくことが重要である。

## 個別目標

「中心商店街（3商店街）における空き店舗数」

※目標設定の考え方基本計画 P94 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位：件)
H22	23 (基準年値)
H23	18
H24	19
H25	23
H26	24
H27	21
H28	22
H28	15 (目標値)

※調査方法：現地調査

※調査月：10月

※調査主体：高岡市

※調査対象：中心商店街（3商店街）

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

#### ① 中心市街地における開業支援事業（事業主体：高岡市）

支援措置名及び支援期間	中心市街地における開業支援事業 平成19年度～平成28年度
事業開始・完了時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の魅力向上に寄与する店舗の進出を促進するため、空き店舗を活用した開業者及び空き店舗の所有者に対し、支援を行う。 ①中心商店街…ものづくりのまち高岡の特徴を出すため、物販を中心とした店舗配置 ②まちなか居住地域…生活に便利な生鮮三品を取り扱う店舗配置
目標値・最新値	中心商店街（末広町、末広坂、御旅屋の3商店街）における空き店舗数 目標値：23件から15件に減少 最新値：23件から22件に減少
達成状況	基準値は超えたものの目標値には達しなかった。
達成した（出来なかった）理由	上記3商店街において、2期計画中に本制度を活用して開業した店舗数は9件であった。開業する店舗がある一方で、店主の高齢化等に伴い、閉店する店舗もあったため、目標に達しなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	目標達成とはならなかったものの、基準数値である平成22年度の23件より1件少なくなっている。
中心市街地における開業支援事業の今後について	今後も継続して実施する予定としている。 今後は中心市街地の中に重点支援区域を設け、その他の対象地域より補助率、限度額を高く設定し、より3商店街の空き店舗減少を図る。

### 3. 今後について

中心商店街では、開業支援事業を活用した飲食店や物販店の開業があり、空き店舗数の減少に一定の成果があったところである。しかしながら、店主の高齢化などによる廃業により商店数が減少したため、市民の意識の中では中心市街地の賑わいを感じるができないといった評価もある。

一方、観光地周辺では増加する観光客を当てに、個性的な店舗の新規開業や、ビジネスホテルのオープンも相次いでおり、中心商店街への新たな誘客要因として機能し始めていることから、中心商店街においても、観光客を始めとした新たな顧客を呼び込み、回遊性の向上と滞在時間の延長につながるような魅力的な店舗を増やしていく必要がある。

したがって、引き続き開業支援事業に積極的に取り組むとともに、更なる拡充策として、重点支援区域の設定による中心商店街の空き店舗の解消や、開業した店舗への経営指導を行いながら、中心商店街及び観光地周辺での開業意欲を喚起するとともに、店舗数の増加による中心市街地の賑わい創出を図る必要がある。